# 川上 高司 ブログ アーカイヴ

## 2018年

### 1月4日

**2018年のアメリカの外交政策は再び混迷**

1 月 1 日、ようやく混乱の 2017 年が過ぎ新たな希望を持って新年を迎えたのもつかの間、トランプ大統領は早々に外交政策を混乱の闇に突き落とした。

トランプ大統領はツイッターで、パキスタンがアメリカのアフガニスタンでの対テロ政策に全く貢献していないばかりかうそばかりつくと非難し援助を打ち切ることを示唆した。「過去 15 年間に 330 億ドルを超える支援をしたのにパキスタンはテロリストの天国を作り出しているだけ」とこきおろした。

アメリカとパキスタンの関係はトランプ政権になってから険悪になっている。トランプ大統領はアフガニスタン情勢が一向に改善しない原因はパキスタンにあるとして、もっと犠牲を払うように圧力をかけてきた。パキスタンは、そもそもテロとの闘いを始めたのはアメリカでありパキスタンはこれまで 1230 億ドルをつぎ込み 6 万人の殉職者を出してきた、これほどの多大な犠牲を払ってきてこれ以上なにをしろというのか、と不信感と怒りを募らせている。

パキスタンの不信感を払拭しようとテラーソン国務長官やマティス国防長官がパキスタンを訪問して前向きな関係を確認したばかりだったその矢先のトランプ大統領の発言は、長年の同盟国との関係を損なうには十分だったようだ。

アメリカは 2 億 5500 万ドルの支援を中止すると脅しをかけてきたが、パキスタン側は援助の中止に対しては冷静である。アメリカが手を引いても経済的なダメージはそれほど大きくないと考えているからだ。ここ近年パキスタンは中国への経済依存が大きくなっている。中国からパキスタンのグワダールへと続くカラコルムハイウェイは中国の投資で整備され、物資の往来は盛んになっている。アメリカがいなくてもいまや中国が代わって支援してくれるので困ることはないのである。

実際、12 月末には北京で中国、パキスタン、アフガニスタンの外相が集まり会合を開いた。議題は現在の中国が行っているパキスタンへの経済支援をアフガニスタンまで伸ばすということだった。「地政学的にこれら 3 カ国は共通の利害をもち、トリプルウインで発展していく」と中国は本気である。

アメリカの外交政策は再び混乱の闇に陥りつつあり、アメリカの国益はますます損なわれつつある。アメリカが脅しをかければ小国がひれ伏す時代はとうに終わっている。棍棒外交はいったい誰のための外交政策なのか、2018 年を迎えるにあたりぜひトランプ大統領に尋ねてみたい。

1月13日

## 不協和音を奏でるトランプ

　トランプ大統領がまたも差別発言をしたとして、世界中から非難が集中している。11 日、執務室での会議でトランプ大統領は「なぜ不快極まりない国（shithole countries）からの移民を受け入れる必要があるのか、ノルウェーのような国からの移民なら大歓迎だ」と述べたと報道された。この不快な国というのがアフリカやハイチ、中米諸国を指していたというのである。

翌日トランプ大統領はツイッターで「そんなことは言っていない」と否定した。だが、世界各国は非難声明を発表し、国連も不快感を表明した。

トランプへの非難だけで終わらないのが外交の世界である。すでにアフリカ駐在大使の中には呼びつけられて抗議を受けた。アフリカにはボコ・ハラムというイスラム過激派が存在し、米軍にとってはテロとの闘いのもうひとつの最前線である。最前線の米軍が、地元からの反発を受けて危機にさらされる可能性について認識しているのか疑問である。外交関係を大きく損なったことは間違いない。

　アメリカの大統領は米軍の最高司令官でもある。米軍では２５％が非白人の兵士である。最高司令官の差別志向が軍の中に不協和音を生み出しかねない危険性を、トランプ大統領が意識しているのかも疑問である。

今回の最大の問題点はトランプ大統領なら「言ったに違いない」と誰もが疑わない点である。これまでのトランプ大統領の言動から見れば彼が差別主義者であると誰もが感じている。しかも白人至上主義者でもある。事実に関係なく「トランプだったらあり得る」という不信感が世界に広がっているということである。もはやトランプ個人の資質の問題ではなく、アメリカの国益の問題となっている。

2018 年の国際社会の中でのアメリカの立ち位置は厳しいものになりそうである。